

顎関節症

ドライマウス

舌痛症

ストレスは

見える！

すべては「噛みしめ」が原因だった

長年歯科クリニック
亀井 英志
Kamei Hideshi

気がつくくと歯を食いしばっている。…心当たりの方は、当コラムの亀井医師の著書「すべては『噛みしめ』が原因だった」をお読みいただきたい。*未病、の原因をまとめた良書です。

ヒトの口の中は、人生のカルテだ。現在の健康状態だけでなく、過去の病歴や、近い将来（未来）の健康、不健康まで分かる言わば、生命力の履歴書だ。

口は胃、腸へと続く消化管の最初の入り口。最初に異物（抗原）に遭遇する。様々なものを無毒化し、免疫を働かせる大切な器官でもある。

「口腔内」はそのヒトの健康、不健康を如実に示す部位はないのだ。

長年歯科医として、老若男女数多くの患者さんの口の中を見て、健康のお手伝いをする中で得た「確信」だ。

当コラムでは、ここ数回に渡って「遺伝子検査」「遺伝子治療」の話をしてきた。当クリニックで、遺伝子検査を始めてから、前述の「確信」は、証拠（データ）で裏付けることができるようになり、当クリニック

での治療実績向上に役に立っている。

それだけではない。遺伝子検査を導入してからは、検査で得られる豊富なデータを元に、患者さんの歯の健康だけでなく、カラダ（全身的な）の健康そのものにも配慮した治療がさらに行き届くようになっていく。

導入前は、口の中の状態を拝見して推測できるのは、一言で言えばヒトの「健康維持力」、その強弱だけであつたことと比べると雲泥の差だ。

隣のページにある歯（口中）の健康が、人生の質を決める、というの

未病の憂い

歯科医が語る現代版養生訓

は、単なるスローガンではなく、全てのヒトにとつての現実だ。

歯の健康が人生の質を決める。なんて大袈裟な、と思われ方もいるだろう。だが、口にかかわる、一般的なお年

寄りの姿、行動を思い浮かべて欲しい。食べる、飲み込む、話す、笑う、など、お年寄りのこれらの動きは、若い方に比べれば、ぎこちなさ

を伴う場合が多い。うまく食べられず、飲み込めず、滑らかに話せず、笑いもぎこちない。

生きていくうえで、ヒトとしての基本的な活動が上手くできないとなれば、カラダとココロが受けるストレスは相当なものだ。

さらに、原因の分からない歯痛、舌痛症、ドライマウス、アゴの痛みなど、不快な症状に悩む、患者さんが明らかに増えていることは、これまでの当コラムでも再三お話ししてきた。

ヒトのカラダは、各部位が相互関連、相互補完し合っており、どこかが悪くなれば、その弱点をカバーし、カラダ全体として、何とかバランスをとろうとする。

亀井英志(かめいひでし)

1951年群馬県前橋市生まれ。76年東京歯科大学卒業。都立病院歯科口腔外科医を経て、84年より長栄歯科クリニック院長。臨床ゲノム医療学会理事。



をとろうとする。

だが、このバランスの崩壊が、新たな病気を生み、連鎖反応の如く、カラダを蝕み始める。

その「バランス崩壊」を早めに知る（病気のかかりやすさ）上で遺伝子検査がかなり役立つ。遺伝子レベルで病気のリスクを知ることが、将来の自分を知ることもなり、人生のQOLを上げることが出来る。

当院では「サーチイン遺伝子」検査も行う。この「長寿遺伝子」は、誰もが持っている一方、生活習慣などによりその活性が弱くも強くもなる特性を擁する。またヒトの「老化スピード」を決定付ける遺伝子とも言われている。

その検査は、長寿遺伝子の基準値を検査。具体的な生活改善や予防療法を示し、健康意識の改革を促す。問い合わせも増えつつある。

「長寿遺伝子」で「健康維持力」を知ろう！